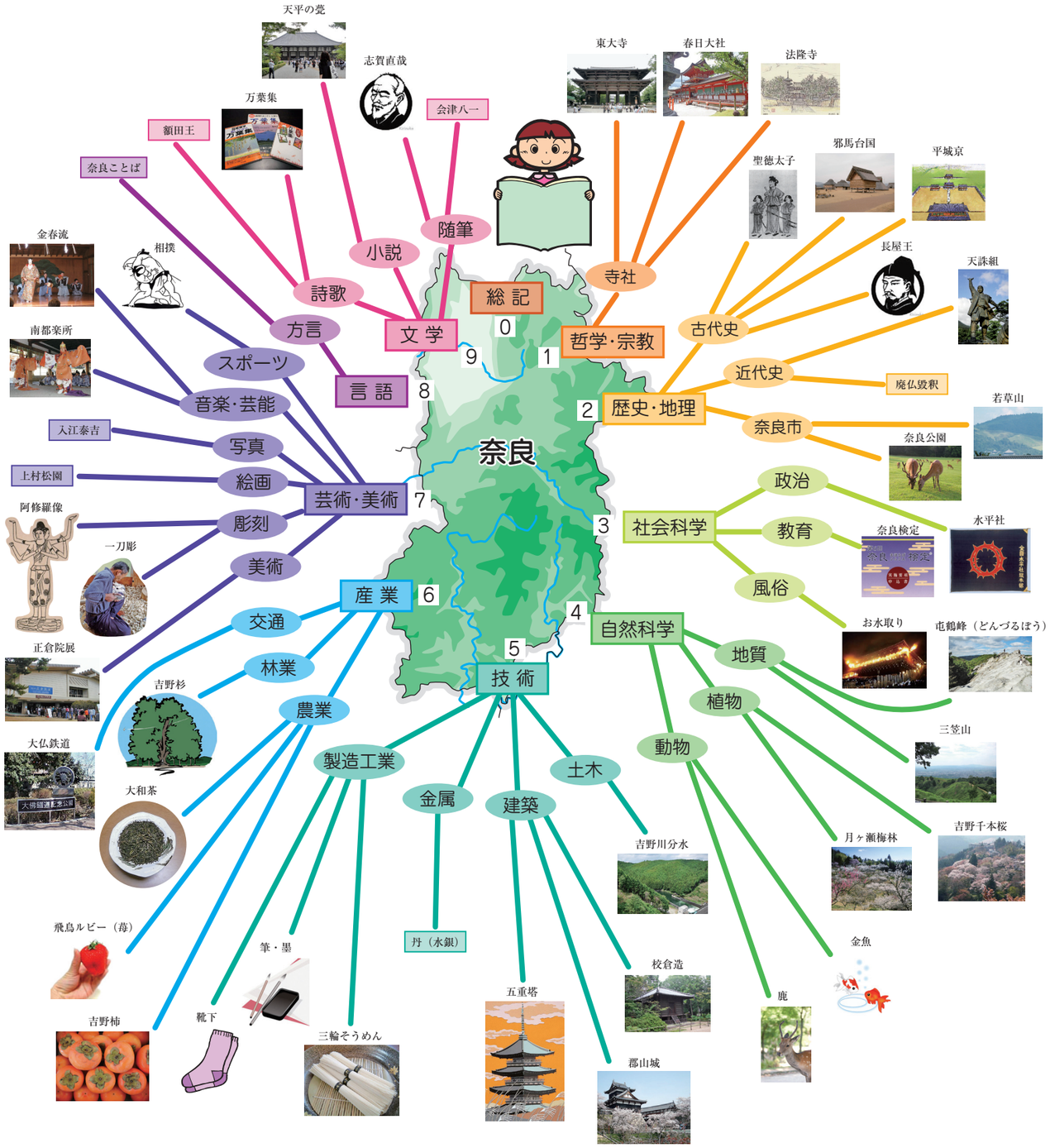
日本十進分類法で「奈良」をイメージする。



〈編 集 後 記〉

奈良大学図書館報 12 号をお届けいたします。今回は、奈良大学図書館の利用を活発に行っていただけるよう、簡単で分かりやすく利用方法をまとめてみました。

図書館での本との出会いが、学生・生徒のみなさまの若い貴重な時間を少しでも満ちたものとなりますよう、活用いただけますと、編集者としましても、まことに幸いでございます。

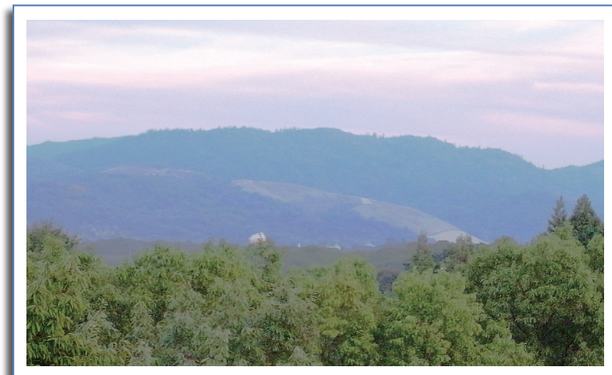
次号は堀図書館長のナショナルジオグラフィックの展示報告を予定しております。お楽しみに。(編集担当)

みささぎ

奈良大学図書館報 12 号

図書館の『さがす』と『つかう』

～五感で感じる図書館～



図書館からの遠望「若草山」。

館内の書架。蔵書は図書約42万冊・雑誌約6千タイトル。

3階閲覧席。若草山にちなんで椅子は若草色。

蔵書検索機と映像資料視聴コーナー。

展示ホールと奈良関係資料。奈良の資料はオマカセ。

出迎えてくれる大きな仁王像。ここはホントに図書館！？

「情報」って何？

「情報」とは、ものや、ことがらの様子をあらわすものです。見えるもの、聞こえるもの、触れるものなど、五感で感じるものすべてが「情報」、といえます。昨今は情報技術の進化により、インターネットでの情報収集に頼る状況があるかもしれません。しかし、もう一歩進んで、その内容が本当に正しいのか、今の情報なのか過去の情報なのか、自身での判断も必要となってくるでしょう。

ここでは、図書館での「情報」の探し方を中心に初心者の方にもわかりやすく解説してみます。

奈良大学図書館を『つかう』

• 本に会える。

図書館の中にはみなさんの家の何倍もの本があります。文字で書かれた本や資料以外にも、CD や DVD のように電子で情報を伝えるものや絵や音で情報をつたえるものなどがあります。

• 本を読む、調べものをする。

図書館では、館内の本を読むことができます。今、本屋さんにはない昔の資料や専門的な調べものをすることもできます。

世界で最初の印刷物？「百万塔陀羅尼」

奈良時代（西暦 764 年）、称徳天皇は、藤原仲麻呂の乱で亡くなった人の霊を慰めるため、陀羅尼経を印刷し、それを木製の小さな塔の中心に納め、十ヶ寺に百万基配りました。そのうちの一つが奈良大学図書館展示室にあります。興味のある人はぜひ見てみよう。

• 本をかりる。

奈良大学に在籍している学生・大学院生、教職員、大学卒業生、附属高校在籍の生徒は、資料の貸出サービスを受けることができます。在籍資格により、貸出期間・冊数などの条件は異なります。

・学 部 生：２週間・１０冊まで
・通信部生：３週間・１０冊まで
・大学院生：４週間・２０冊まで
・特別聴講生・附属高校生：２週間・３冊まで

日本で最初の図書館

日本で最初の公開図書館は「芸亭（うんてい）」という名前で、一条高校のあたりにあった、といわれています。今は記念碑しかありませんが、奈良時代の末期に石上宅嗣という人が自分で集めた本を平城京の自宅で公開し、「芸亭（うんてい）」と名付けて希望する人に使えるようにしたようです。昔はどんなところだったんでしょうか・・・？

資料は勝手に持ち帰らず、カウンターで「貸出手続」をお願いしましょう。

• 本を返す。

図書館から借りた本は決められた返却日までに図書館に返します。本を借りている間は丁寧に使い、固い床に落としたり、水に濡らしたりしないようにしてください。

• 地域公開制度

在学・在校生の保護者の方は、地域公開制度による利用が可能です。ホームページでも案内しています。

一般の１８歳以上の方はだれでも利用できます。詳しくは下記のホームページを見ていただくか、図書館までご連絡ください。

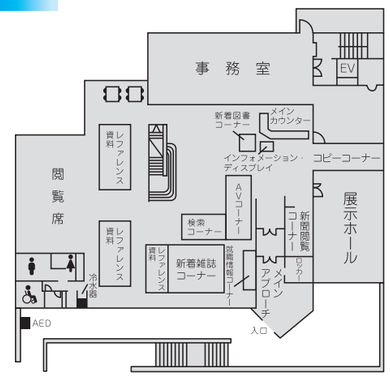
TEL：0742-41-9507(直)
HP：http://library.nara-u.ac.jp/nara/tiikin.htm
E-mail：library@aogaki.nara-u.ac.jp

なお、地域公開制度で利用される方への資料の貸出サービスは行っておりません。また、閉架資料も利用できません。

インフォメーション

図書館の中でよく使われる２階と、メインの書架の１階を紹介します。

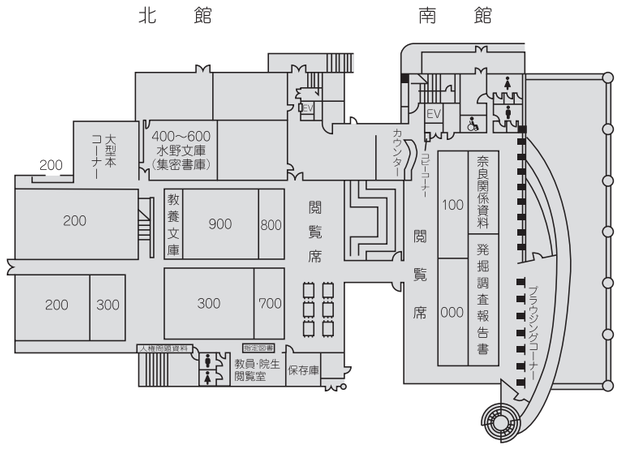
•2F



全国の発掘調査報告書

図書館の入口は 2 階のフロアになります。DVD などの視聴コーナーや雑誌も置いています。
展示ホールでは奈良関係資料と、「百万塔」の常設展示および時期に応じた各種展示を行っております。
また、2・3F 閲覧席では持ち込んだノートパソコンを使って無線 LAN が利用できる環境が整備されています。

•1F



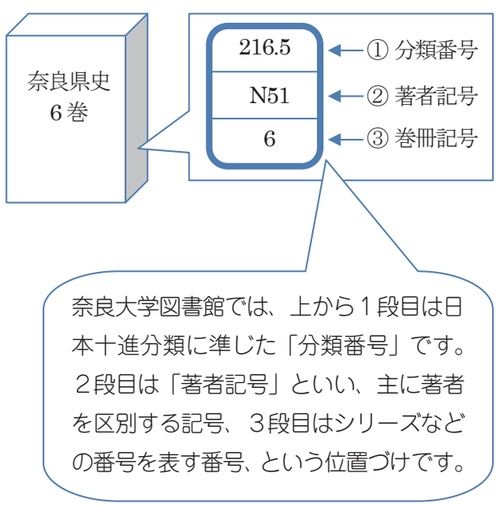
1 階には、和図書のほか、奈良関係資料や発掘調査報告書があります。

「奈良」の資料がたくさん

読みたい本を『さがす』

本に貼ってあるラベルは？

図書館の本には背表紙の下部に、数字とアルファベットが書いてあるラベルが貼ってあり、「日本十進分類法」で分類されています。<右下参照>



①分類番号

分類番号はまず本のテーマを 10 のグループに分け、0 から 9 の数字であらわし、その一つを 10 ずつのグループに分け(100 区分)、さらにその一つを 10 ずつに分け、1000 のグループを作ります。数字に意味を持たせて分けることにより、本のテーマごとに同じ類のものが同じ所へ集まるように、番号で区別して並べる方法です。桁を多くして細かい分類が可能です。(例：シカ科)

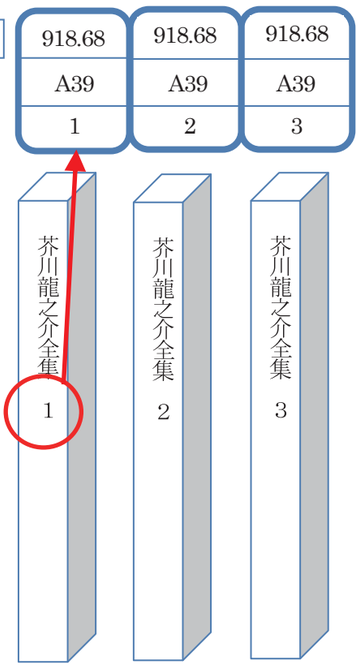
②著者記号

奈良大学図書館では、著者、シリーズ名、タイトルなどのキーワードを、著者記号表でそれぞれアルファベットと数字に変えて表記しています。
同じ分類番号の中で同じ著者を同じ所に集める方法です。

③巻冊記号

同じタイトルで複数に分けて出版されている場合、番号をつけて判別します。

巻冊記号を使用



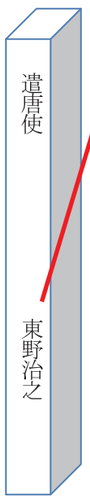
日本十進分類法

10区分（類目表）
- 0：総記
- 1：哲学
- 2：歴史・地理
- 3：社会科学
- 4：自然科学
- 5：技術
- 6：産業
- 7：芸術・スポーツ
- 8：言語
- 9：文学

100区分（綱目表）
- 40：自然科学
- 41：数学
- 42：物理学
- 43：化学
- 44：天文学・宇宙科学
- 45：地球科学・地学
- 46：生物科学・一般生物
- 47：植物学
- 48：動物学
- 49：医学・薬学

1000区分（要目表）
- 480：動物学
- 481：一般動物学
- 482：動物地理・動物誌
- 483：無脊椎動物
- 484：軟体動物・貝類
- 485：節足動物
- 486：昆虫類
- 487：脊椎動物
- 488：鳥類
- 489：哺乳類

……
489.85：ウシ科
489.86：シカ科
489.87：キリン科
……



ローマ字変換する
東野 ⇒ トウノ ⇒ Touno

著者記号表で該当する表記を記入する

Touno ⇒ To63

これを著者記号に採用。

読みたい本は？

読みたい本のタイトル・著者などがわかる

読みたい本のいくらかのキーワードがわかる場合は、コンピュータで『さがす』のが便利です。

⇒ ***A. コンピュータで『さがす』へ***

読みたい本のタイトル・著者などがわからない

読みたい本のイメージがあって詳しいことがわからない時は書架へ直接行って『さがす』方法もあります。

⇒ ***B. あるいて『さがす』(裏面)へ***

A. コンピュータで『さがす』

読みたい本のタイトル・著者・出版者などがわかっている場合は、蔵書検索用のコンピュータで検索できます。検索システムはインターネット経由で検索することもできます。

http://library.nara-u.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do

検索キーワードを入力して検索ボタンをクリックします。

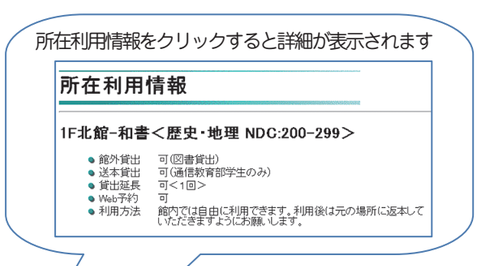
■携帯の場合は･･･下記の URL にアクセスしてキーワードを入力します。

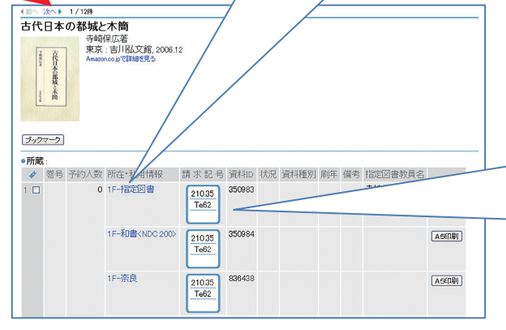
http://library.nara-u.ac.jp/i/search-book-j.html

一覧表示で希望の資料があれば、その資料のリンクをクリックすると詳細画面が表示できます。詳細画面では資料の背に張ってあるラベルが表示されます。

「所在･利用情報」は資料の所在場所のこと、「請求記号」はラベルのことで、資料は書架でこの番号順に並んでいます。

所在利用情報をクリックすると詳細が表示されます



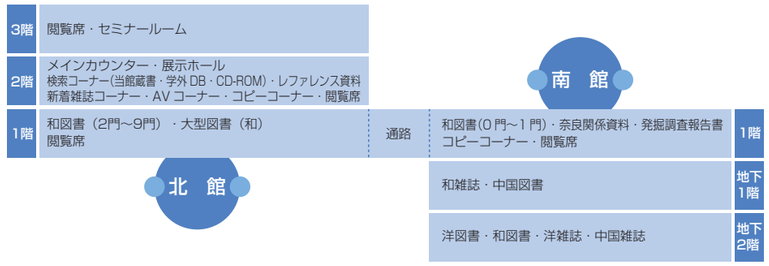


「所在利用情報」には、館外貸出できるかどうかの説明もあります。

読みたい本を『さがす』

B. あるいて『さがす』

本棚に並んでいる資料の順序で『さがす』　①本のならび方へ
分類番号をキーワードにして『さがす』　②分類番号の考え方へ



①本のならび方

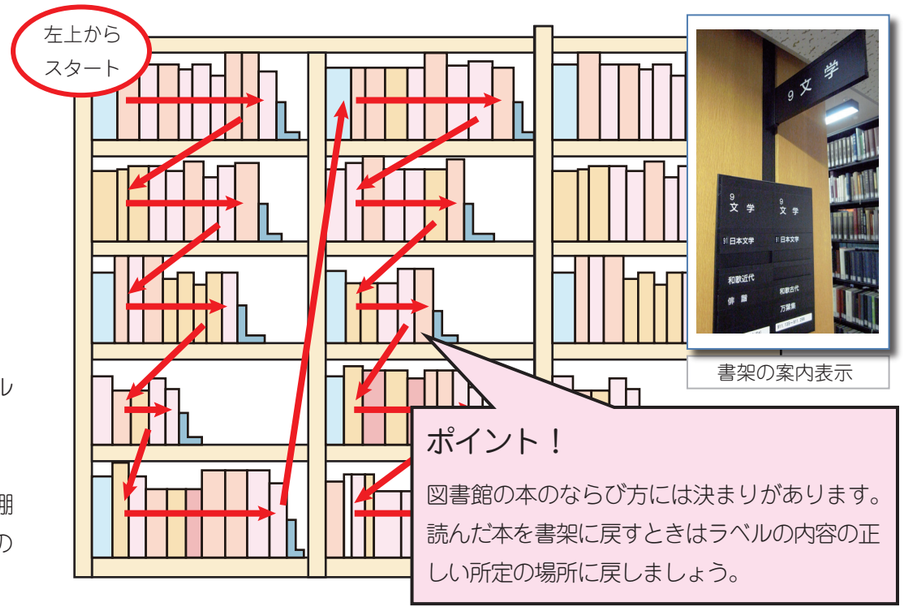
図書館の本棚は次の順序で並んでいます。

1　分類番号の順に並べるので、番号の同じものが同じところに並びます。
2　同じ分類番号の場合は、著者記号のアルファベット順に並びます。
3　同じ分類番号、同じ著者記号で複数の本で刊行されている場合は、巻数順に並びます。

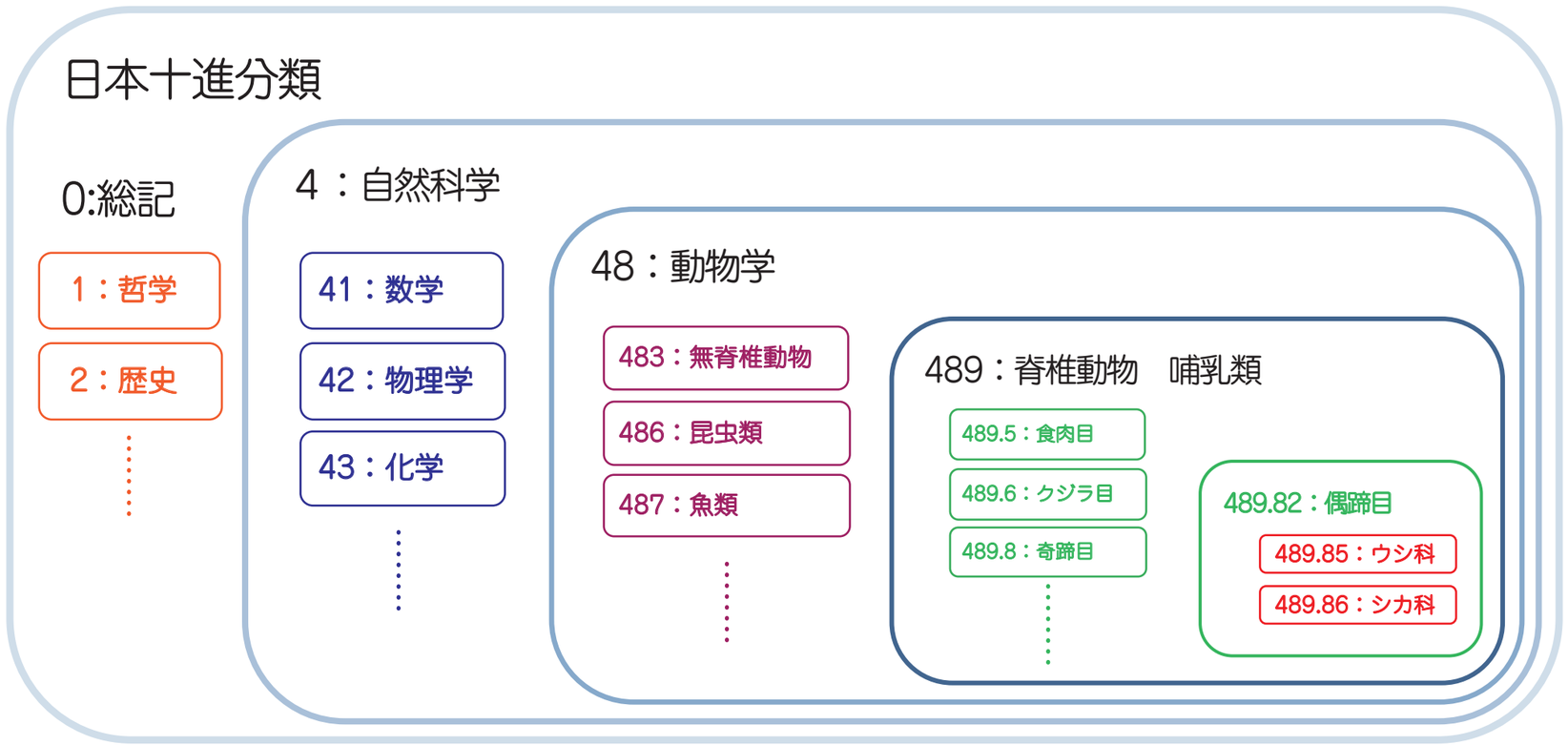
奈良大学図書館では、和書（日本語で書かれているもの）、中国書（中国語・韓国語で書かれているもの）、洋書（日本語・中国語・韓国語以外の言語で書かれているもの）にわけて上記の１～３の順番にならんでいます（上記書架の配置を参考。中国書・洋書は地下にあります）。

雑誌は和雑誌・中国雑誌タイトルのよみ順、洋雑誌はタイトルのアルファベット順に並んでいます。

本棚の本は上の棚の左から右へ、仕切りがあると、すぐ下の棚の左から右へという順番で配置します。本を探すときは書架の掲示も確認します。



②分類番号の考え方



自然科学の中の「シカ」（シカ科）をモデルにして分類番号の「範囲」を考えてみます。

日本十進分類の全体から始まって、自然科学（4）の「広い範囲」、動物全体（48）から脊椎動物哺乳類（489）、偶蹄目シカ科（489.86）の「狭い範囲」まで桁が多くなるほど細かく分かれます。また、同じテーマの詳しい資料が集まるようにもなっています。

情報をさがす時は、「広い範囲」から「狭い範囲」まで広げたり狭めたりして考えます。例えば、日本目録規則全体の「0：総記」の場所にある百科事典で「シカ」を調べることもできますし、「48：動物学」にある動物事典で「シカ」調べることもできます。もちろん、「489.86：シカ科」の場所へ行くと「シカ」が詳しく書かれている本があります。

0：百科事典　⇒　48：動物事典　⇒　489.86：ニホンジカ

自身が必要な情報はどこにあるのかは、書架で資料の中身を見てみないとわかりませんが、歩いた分、様々な発見があるはずです。